

実践してみよう、防災活動

地域名: さくら市
パートナー名: さくら市役所総合政策部総務課危機管理係

20班 コミュニティデザイン学科 安代朱里 栗聡真
建築都市デザイン学科 鈴木康平
社会基盤デザイン学科 鮎田秀都 長田結名

背景

災害被害が少ない
↓
住民の防災意識が低い
↓
自主防災組織の設立を促す



しかし...

自主防災組織の設立が進まない
・地域防災の継続が難しいと感じている組織も...

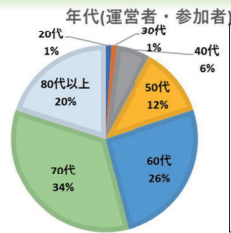
目的

住民の防災意識を向上させる

これに向けて

継続できる防災訓練の実施
↓
継続できる防災訓練のモデルづくり
↓
他の地域の防災活動につなげる

分析結果



住民の年代別人口はほぼ等分であるが、アンケート回答者は50~80代が大半であった。高齢者は時間に余裕がある人が多いためこのような結果になったと考えられる。
→**40代以下の若者の参加も促す必要がある。**...①

図1

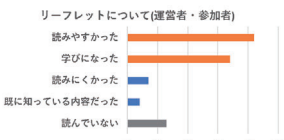


図2

「読みやすかった」「学びになった」多数
→**関連資料の必要性は認められた**

「文字を大きくしてほしい」との声もある。
→**高齢者用のリーフレット**...②

黄色いハンカチ作戦実施すべきか

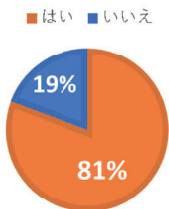


図3

「はい」が8割以上
→**今後も継続して実施すべき住民の周知を図る**...③

「いいえ」の理由
・色やハンカチにこだわらなくていい
・災害時は気が回らないのではないかと
・黄色いハンカチ作戦の内容が分からなかった

黄色いハンカチ作戦に参加したか

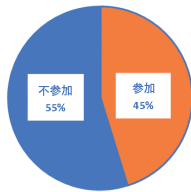


図4

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、訓練規模を縮小しているため参加者は大幅減となった。今回は高齢者の避難訓練のみ実施としたため、アンケート回答もこれに連動してしまっ。

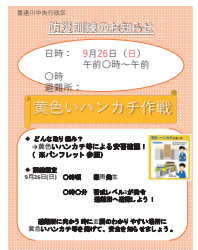
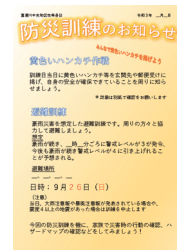
「不参加」の理由
・黄色いものを持っていなかった...④
・意味や趣旨が分からなかった...③
・留守だった...⑤
・忘れていた...⑤
・実施していることを知らなかった...⑤

方法

1st cycle 過去の被災場所を視察
自主防災組織設立済みの区長らに聞き取り調査
防災訓練に関するリーフレット・チラシを作成

2nd cycle 喜連川中央行政区の打ち合わせに参加
防災に関するリーフレット・チラシの配布
防災訓練の実施
アンケート調査(訓練、リーフレット等)

3rd cycle アンケート結果の分析
区長らとの打ち合わせに参加
(聞き取り調査、分析結果の共有、今後の提案)
リーフレットのリメイク



提案

●高齢者と若者、それぞれに向けた訓練

①若者に向けた提案

体験型のイベントも行うことで子どもにも興味を持ってもらう
→親子での参加を促す

- ・避難所生活体験(段ボールベッド作り、炊き出し)
- ・地震体験車
- ・着衣水泳
- ・防災運動会(昨年度作成されたマニュアル有)
- ・学校で開催(子どもが参加しやすい場所)
※想定する災害に注意が必要

②高齢者に向けた提案

文字が大きく読みやすいリーフレット



●黄色いハンカチ作戦のルール明確化

③黄色いハンカチを掲げるタイミングの提案

- a) 垂直避難、又は自宅以外への避難完了
- b) SOSのときは赤色のハンカチを掲げる

●その他の提案

④ハンカチの配布・販売

⑤周知文を複数回発送する